

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200283		
法人名	株式会社たんぼぼ介護サポートセンター		
事業所名	グループホームたんぼぼの小道		
所在地	千葉県松戸市五香4-54-20		
自己評価作成日	令和元年12月11日	評価結果市町村受理日	令和2年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和2年1月15日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念でもあるご利用者様の自立と安心した生活を常に念頭に置き、ご利用者様には無理の無い範囲で生活リハビリを行っていただいております。出来ない所は、他のご利用者様がサポートして下さいますので支え合いながら生活されております。地域の方々のご協力で避難訓練やお祭りなどに参加させていただきグループホームの事を知っていただく機会がたくさん増えました。室内にいと季節感が薄れてしまったため、季節ごとの行事を考ご利用者様には楽しんでいただいております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新京成元山駅より徒歩で5分ほど、閑静な住宅街に立地し買い物や訪問に便利な2階建てのホームです。同じ建物内にデイサービスが併設され設備も充実しており、ボランティアの受け入れ、研修、避難訓練、風呂(リフト浴や大風呂)の共用など連携し効率的に運営されています。  
地域密着型サービスの意義を踏まえた3項目の理念を掲げて全職員が共有し、利用者がゆったりと暮らせるように、チームワークを發揮して理念に基づいた支援をしています。地域との協力関係も良く、運営推進会議には町内会長や民生委員の出席があり、ホームの防災訓練にも町内会の防災委員が参加してくれる等、地域との密着度も増し交流を定着させています。また季節ごとの行事も活発に行われ、特に毎年のバス旅行は利用者の楽しみのひとつになっています。医療面では、看護師の職員もおり、今年も適切な医療連携で2名の看取りが行われ、家族に信頼と安心感があり感謝されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼後、各フロアにて運営理念を唱和し共有しております。	運営理念3項目(安心できる生活・自立支援・地域交流)を玄関やフロアに掲げ、職員は、毎朝各フロアで唱和・確認・共有し日頃のサービスで既に実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会のお祭りやイベントに参加させていただいております。また、避難訓練に参加していただき、ご利用者様の見守り等のご協力をして下さいます。	町会の行事(お祭り・餅つき・クリーンデー・避難訓練など)には積極的に参加しています。歌と踊り、三味線(沖縄)や落語などのボランティアを受け入れ地域との交流も定着しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームを知っていただく為町会のイベントやクリーンデイに参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催される会議にて活動状況を報告すると共に、皆様からは報告後にご意見をいただきサービス向上に努めております。	会議は、今年度すでに5回開催し3月にも開催予定です。地域包括支援センター、町会長、民生委員、介護相談員、利用者、他グループホーム、職員が出席し、意見交換を行い、参加者からのアドバイスを運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方が訪問されご利用者様と交流を図る中でサービスについての取り組みの確認をされたりアドバイスをいただいております。市の担当の方の訪問も定期的でございます。	市の介護保険課や生活支援課とは、常に連絡を取り合い報告し相談に乗って貰っています。運営推進会議にも毎回地域包括支援センターの出席があり、アドバイスを貰うなど密接な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	作成したマニュアルをもとに研修を行っております。	身体拘束適正化防止委員会を2か月に1回運営推進会議の中で話し合いをしています。社内研修を定期的に行い周知徹底を図っています。昼間玄関やユニット間は施錠せず、職員が見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の様子観察を徹底し虐待の防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の方が後見人制度を利用しています。制度については、後見人の方より説明をいただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書は一語一句読み上げを行い、不明な点がないか確認させていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員との交流の中でご利用者様のご意見を聞けたり、ご家族様の面会時には要望等をお聞きするようにしております。	家族については、面会時や運営推進会議、各種行事(バス旅行・敬老会・クリスマス会など)開催時に意見・要望を聴き運営に反映するようにしています。利用者については、介護相談員が毎月訪れ意見を聴いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議の中で改善すべき点や職員からの意見を聞いております。	管理者は、日頃の業務の中や月1回のグループホーム会議などで職員の意見・要望を聴いています。また施設長(社長)や看護部長などの個人面談もあり、職員が、意見・提案を述べる機会は多くあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調面や労働時間については個々に面談をさせていただき働きやすい環境づくりに務めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部共に研修には積極的に参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設運営推進会議、他職種ネットワーク研修、グループホーム協議会に参加し勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に声かけをご本人様より情報を得る様 にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や担当者会議、運営推進会議等でご家族様からのご要望をお聞きしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の必要としているサービスを聞き取り、職員看護師と話し合いを行いながら決定させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間がかかっても、やり方が違ってご自身で出来ることはご自身でやっていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	バス旅行や誕生会、敬老会などにはお声がけをさせていただきご家族様とお過ごしいただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きなれたお店や、病院に行き馴染みの方との会話が楽しめるよう支援に努めております。	「面会は午後8時までに」と案内していますが、状況に応じて柔軟に対応しています。家族とお墓参りに行ったりお盆に自宅に帰って過ごすなど、家族やなじみの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう皆様が一緒に取り組める物として合唱や体操を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があった際には可能な限り対応させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	タクティールケアを行いながら、ご本人様の意向や要望の把握に努めております。	毎日5～10分利用者の体に触れながら話しかけています(タクティールケア)。意思を伝えるのが困難な人もリラックスして表情が和らぎ、心の声をさくのが狙いです。利用者の気持ちに沿った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録の情報を確認、またご家族様からの情報をできるだけ多く聞き取り把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの中で、ご利用者様のご様子や体調の変化を共有し把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本にやご家族様より意向を聞き取りそれをもとに、他職種より意見を聞き、課題や必要なケアについて話し合いを行い介護計画を作成しております。	利用者・家族からの聞き取りとともに、医師からの医療情報、在宅時のケアマネージャーなど関係者から情報を得て介護計画の原案を立てます。利用して1か月様子を見て担当者会議を行い本プランを立てています。モニタリングは毎月行い、半年ごとおよび変化時に計画を見直しています。	介護計画の作成から見直しまでのしくみはできていますが、モニタリングはパソコン内で管理しており、一連の流れが見えにくい状況です。職員が計画を念頭において支援するためにも見える化への取り組みが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に残し、ケアプランの番号を記載しております。番号を記載することで介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お身体の状態に変化があった場合はご家族様にご報告し、柔軟な対応をするように取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社に初詣に出かけております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診の中で必要であれば医師よりご家族様ご本人様に治療方針等のご説明をいただいております。	利用者・家族は入所時に医療機関の選択をしています。現在は全員月2回の訪問診療を受けています。また看護師を中心に服薬、健康上の相談など医師と連携を取りながら利用者の健康を管理しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や急変時には看護師に報告、指示を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師と共に状態を確認、医療相談員と情報交換し早期に退院出来るよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事前指示書を記入していただいております。状態の変化があった場合はご家族様にご説明し方針を決定させていただきます。	入所時に重度化した場合の利用者・家族の意向を聞き取っています。ホームでの最期を希望する場合には「看取りの指針」を示してホームの考え方を伝えています。医師を交えて話し合いを行い方針を決めています。今年度は2名の看取りを行い、家族からは感謝の声が聞かれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや医師、看護師に助言をいただいております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町会の方に参加していただき合同避難訓練を行っています。毎月、夜間想定避難訓練を実施しております。	デイサービス施設(併設)と合同で避難訓練を1回実施し、その際町会の防災委員8名が参加してくれます。毎月実施する夜間想定避難訓練を、運営推進会議時に実施することもあります。備蓄も5日分ほど準備し、内容の充実に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務内で問題があればその場で注意し合い、会議内にてスピーチロックについての研修を行っております。	薬と個人ファイルは各階で鍵のかかる棚に保管しています。内・外の研修により人格を尊重した支援について学んでいます。気になる事があればその都度注意・指導しています。また入浴や排泄時の羞恥心への配慮も徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう声かけに注意しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定を伝え、参加するかはご自身で決めていただきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候にあった洋服をご自身で選んでいただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえや、盛り付けは職員と一緒にしています。	利用者が職員の見守りのもとで食材を切ったり、皮をむいたりしています。また盛り付けや食器拭きなどできる事を行っています。食事は静かに音楽が流れる中で職員と談笑しながら食べています。利用者の意向を反映して鍋やオムライス、ピザが食卓に上る日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分、チェック表を活用し摂取量の確認、不足している場合は工夫して摂取していただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お一人お一人ご自身で口腔ケア、入れ歯の洗浄を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握するため排泄チェック表を活用しております。	ほとんどの利用者は排泄に何らかの介助を必要としています。職員は排泄チェック表をもとにトイレの誘導や声かけを行っています。誘導の時間を個別に対応することで失禁が減っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用し、食事やおやつを工夫しております。看護師と相談し排便のコントロールを行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日であっても、気分が優れないときは後日にしたり、順番を後回しにするなどし個々に沿った支援をしています。	週に2回のペースで入浴しています。職員と一対一で過ごす時間を大切にしています。浴室にはリフトを設置し、2～3名の人が利用しており、湯船で温まれることを喜んでいます。入浴を拒否する人には無理強いをせず、時間や日を変えるなどの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡をしていただいております。体調不良やお部屋で過ごしたい方は各居室でゆっくりお過ごしいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表ファイルを確認しています。薬の変更や追加については、服薬する目的、服薬時間、用量など申し送りノートに記載し共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日やイベントごとにご利用様より嗜好品を聞きお出ししております。出来る事出来ない事を見極めやる気を損ねることなく取り組めるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人のご希望で日用品を買いに出かけたり散髪に出かけております。バス旅行はご利用者様の意見も参考にし考えております。	天気の良い日にはできるだけ近隣を散歩しています。また服や食品、薬など利用者の欲しいものを買いに個別に出かけています。年間では初詣や花見バス旅行など、家族にも声をかけて外出を支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保管は管理者が行い、買い物に出かけた際のお支払いはご利用者様にお願いしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話の取り次ぎ、手紙は代筆させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物は季節感が味わえるよう工夫し、共用空間は圧迫感がないよう必要な物以外置かないようにしております。	昼間ほとんどの利用者が過ごす、リビング兼食堂は、明るく清潔感があり、季節の花や行事の写真で季節を感じることができます。また厨房が一体となっているので、匂いや音で生活感があります。利用者が居心地よく過ごせるように、室温や臭いにも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様で合唱をされたり塗り絵やパズルをされたりしています。会話がしやすいよう席を移動したり思い思いに過ごされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での生活に近づけられるよう使いなれた物をご持参していただいたり写真や作品を自由に飾っていただき居心地の良い空間を心がけています。	清潔な居室は、利用者それぞれに馴染みの物(テレビ、タンス、位牌、家族の写真など)を持ち込み、自宅にいるように過ごしています。居室には祝敬老や誕生日の色紙などが飾られ、ホームの気遣いが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口に目印をつけたり、座布団で自席が分かるようにしています。		